

# のびのび 田底っ子

第24号

文責：校長 益永 一幸

## 植木ふれあい文化センターに人権標語（2年生の作品）を展示



西宮原にある「植木ふれあい文化センター」のホールに、田底小2年生が作った「人権標語」が展示されています。来年の9月まで展示されると思います。家族で一度行ってご覧になられてください。家族・地域の人や友だちや自分自身に向けた「温かいメッセージ」の作品ばかりで、とてもほのぼのとしていて、読む人の心が癒されます。

（いくつか作品を紹介します）

「あさから、みまもりしてくれてありがとう、これからもあんぜんに歩くよ」

「きょうしつにはいると友だちが、おはようと言ってくれた。うれしくなった。」

「友だちが、いっしょにあそぼうと言ってくれた。心がふわふわになった。」

「ママも パパも だいすき。ありがとう。」

### 10月 校長講話 題：見えない「努力の壺」

今まで分からなかったことやできなかったことに挑戦しようとするとき、目に見えない「努力の壺」のような物が心の中にできるそうです。その壺の中に努力の水を入れていき、いつかあふれ出ると、できるようになるということです。ところが、その壺には四つの特徴があることが、科学的に分かっています。

一つ目は、人によって壺の大きさが違うということです。すぐに分かったりできるようになる人もいれば、なかなかできるようにならない人がいるのは、そのためです。すぐにできるようにならない時は、壺に努力の水がたまっているときなので、我慢することが大切です。そして、努力の水が壺からあふれ出る瞬間は突然やってきます。

二つ目は、努力の水を入れ続けなければ、水は乾いてなくなってしまいますということです。頑張っているときは、だんだん上手になってきたと感じることでしょう。ここで油断して努力することを休んでしまうと、あっという間に努力の水は乾いてしまいます。こつこつと努力し続けることが大切です。

三つ目は、努力の水が一度でも壺からあふれ出れば、その後に減ることはあっても、なくなってしまうことはないということです。自転車乗りや水泳、掛け算九九も、一度できるようになってしまったことは、全くできなくなってしまうことはほとんどありません。ちょっと努力すれば、すぐに元に戻ります。

四つ目は、大人の壺より子どもの壺の方がずっと小さいということです。大人になってから努力しても、なかなか上達しないものです。例えば、ピアノを弾けない私がピアニストを目指すと言ったら、誰も信じないでしょう。子どもと大人と一緒に努力し始めたら、子どもの方がすぐに上達するのです。大人が「今のうちに頑張らないと将来困る」と言うのは、そのためです。

これからいろんなことに挑戦するとき、この努力の壺のことを思い出し、努力の水を入れ続けて、わかたりできたりしたことをいっぱい増やし、自信をつけましょう。